



# 関町小通信

平成30年2月28日  
練馬区立関町小学校  
学校だより 3月号

## 2020年の関町小の姿（予言）

校長 福岡 勤

私：「この住宅は、ゼッチ（ZEH）基準に対応していますか？」

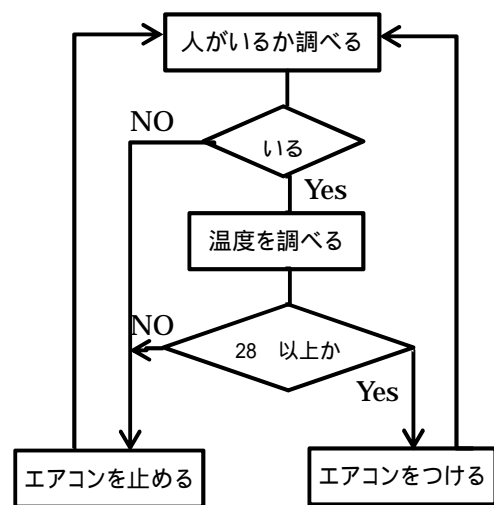
営業担当：「ゼッチ？...ゼッチって何ですか？」

ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス、ゼッチと読みます）とは、高い断熱化と高効率設備により省エネに努め、太陽光発電などによる創エネを組み合わせる住まいの年間一次エネルギー消費量が正味（ネット）おおむねゼロとなる住宅のことで、政府は標準的な新築住宅での2020年からの実現を目指しています。冒頭部は、夏暑く、冬寒い我が家が改善できないかと少々勉強して住宅展示場に出向いた際に交わした会話です。ハウスメーカーのプロが2年後に標準となる用語を知らないことに少々驚きをおぼえました。

2020年と言えば、教育の世界では新しい小学校学習指導要領が完全実施されています。この年の関町小の未来の姿を予言してみましょう。5・6年の「外国語活動」は「外国語」となり、教科書を使用して週2時間学んでいます。3・4年は現在の5・6年生が学んでいる内容の基礎・基本的な部分を「外国語活動」の中で週約1.4時間学習しています。「特別の教科 道徳」としての実施3年目となった「道徳」では、教科書を使い、記述式の評価を行う道徳指導が軌道に乗っています。図書室には「学校図書館蔵書管理システム」が導入され、図書室内の全ての本はPCによるバーコード管理がなされています。

また、昨年の2月号にて説明をお約束しておりました「プログラミング教育」も実施されています。このプログラミング教育は、プログラミング科という教科ではないため、教科書はなく、全教育活動の中で「プログラミング的思考」を育てていくことを目的とする教育です。「プログラミング的思考」とは、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる論理的な思考のことです。

近未来の授業においてはPCやタブレット当たり前に導入されていることは疑う余地はありませんが、練馬区においては予算の関係で一人一人の児童が操作して行う学びはまだ先になります。代わりに教員の指導用として各学年に1台の割合で、タブレットと大型の掲示装置が導入されています。ただ、「プログラミング教育にはPCやタブレット操作が必須である」という考えは誤りです。学習指導要領の中には、「総合」の中でのPC等の操作を必ずしも必要としない算数・理科等での実施例が示されていますので、ここで6年理科の「電気の利用」の学習での事例を基に説明しましょう。下のフローチャートは、人がいて、温度が28以上のときにエアコンをつけ、それ以外ときはエアコンを止めるプログラムです。子供たちが理科室の机の上で実験して得た学びを頭の中で再構成してこのようなプログラムを試行錯誤しながら考え・作成する学習を通して、生活の中の電気製品もセンサーが働いて意図した作動がなされていることに気付く学びに変換させます。



蛇足になりますが、このプログラミング教育についての質問については冒頭の営業担当とは違い、教育のプロである本校の教員はお答えできるはずですよ。